



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第 123 号

平成18年 3月24日

編集 旭川医科大学  
教務・厚生委員会  
発行 旭川医科大学教務部学生課



夜明け前 (白金温泉)

(写真撮影：学生課)

卒業生を送るにあたって……………八竹 直………… 2	看護学科野村教授最終講義……………32
医学科第28期生を送る……………笹嶋 唯博………… 3	名誉表彰……………32
第7期生を送るにあたって……………新開 淑子………… 4	音楽系クラブコンサート……………33
感 謝……………大久保祐樹………… 5	外国人留学生冬季交流事業……………33
卒業にあたって……………矢野 絢子………… 5	平成17年度 1年のあゆみ……………34
卒業にあたって……………墓地本宙己………… 6	学生表彰者……………35
医学科第28期卒業生名簿……………6	各種保険について……………36
卒業にあたって……………本間 未央………… 7	平成18年度日本学生支援機構奨学生の募集について ……36
卒業にあたって……………山下 萌………… 7	平成18年度前期分授業料免除及び延納・分納について ……36
看護学科第7期卒業生名簿……………8	授業料未納による除籍について……………37
平成17年度修士・博士学位記授与者名簿……………8	セクシャルハラスメントについて……………37
一年を振り返って……………後藤 和海………… 9	新入生歓迎合宿のご案内……………37
一年を振り返って……………谷内 裕輔………… 9	課外活動物品庫の整理……………38
一年を振り返って……………森田 麻美…………10	学生団体の設立・継続届について……………38
一年を振り返って……………山本絵莉奈…………10	窓外……………吉田 逸朗…………38
授業評価の公表……………11	



## 卒業生を送るにあたって

旭川医科大学長 八 竹 直

この春めでたく医学士・看護学士の学位を取得される医学科第二十八期生九十九名、看護学科第七期生六十六名の皆さんに心からお祝い申し上げます。

医学科では六年、看護学科では四年の間、学業や課外活動に励み、知識、技術、倫理観それに人間関係の大切さなどを十分に学ばれると共に多くの思い出も作られたことと思います。

これからは今までに得られたあらゆる事柄を活用して、社会に貢献されることを期待しています。

さて、最近素晴らしい医学の進歩によって、様々な高度先進医療が開発され、人々に大きな希望をもたらし、世の中から医療に対し大きな期待が寄せられています。

しかし他方では不幸な医療事故や医療紛争等が問題になり、医療界が厳しい目で見られることも多々あります。それゆえ、この春から社会に出て、医療の第一線で業務に携わることになる皆様方は医療人としての基本的な職業倫理を持って臨まねばなりません。

日本医師会から医師の職業倫理指針が提唱されています。その最初に医師の基本的責務として三項目が挙げられています。これは当然医師を対象に書かれていますが、私は看護師を含めて医療人すべてに該当する責務だと考えますので、ここでは医師を医療人と置き換え、その内容を掻い摘んで紹介したいと思います。

第一点は医学知識や技術の習得と生涯教育についてであります。

専門職としての能力、すなわち確かな知識と技術は、医療人にとって当然備えるべき条件であります。そのためにも、医療人は生涯にわたり常に学習に励み、学術的知識と技術とを習得する義務があります。

第二点としては研究心と研究への関与が挙げられ

ています。

医療人は、その従事する職種にかかわらず、常に医療の進歩と発展のために貢献すべきであります。医療の向上のためには、個々の患者に対する診療のみならず、診療の基礎となる研究の向上を図ることも重要です。

第三点として品性の陶冶と保持について記載されています。

すなわち医療人は、日頃から多くの人と交わり、さまざまな学識や経験を生かした多面的なものの見方ができるように見識を培い、また、医療人としての責任にふさわしい品性の陶冶に努めなければなりません。さらに医療人としての名誉を重んじ、患者や社会の信頼に応えるよう努めなければなりません。この名誉や信頼は、医療の知識や技術だけでなく、誠実、礼節、品性、清潔、謙虚、良いマナーなどのいくつかの美德に支えられ培われるものであると述べられています。

私はこの第3点目にある品性の陶冶と保持については特に大切なことと考えます。どうぞ皆様の心にこのことを深く留めて、これからの医療を担っていただきたいと思います。

しかしこの春からの現実の医療現場では戸惑いとともに辛いことや苦しいことも多いと思います。そのような時にはあなた方がこの大学に入学した当時に持っていた「病んで苦しんでいる方の役に立ちたいから医療職を目指した」という初心を思い出し、病んでいる人の為に医療に精進してくださることを切に願っています。

それでは学位を取得された皆さんの今後ますますのご健康とご発展を心から祈念して卒業生を送る言葉といたします。



## 医学科第28期生を送る

医学科第6学年担当 笹嶋唯博

この度、卒業を迎えられる28期生に心よりお祝いを申し上げます。つらくも楽しい学生生活が終り、人生の半ばが過ぎたのがっかりしておられる方もあるかも知れませんが、まさにスタートです。

私は臨床医の立場からしか話ができませんが、臨床医としての歩みを振り返ってみますと、卒業してから30才までが広く臨床を研修する時期、30~40才は専門領域を目指して修練し、まさに臨床医としての技量を高める時期、40才から50才にかけては臨床医としての名を世の中に広め、50才以降は後進の育成に軸足が移される時期であるように思われます。少なくとも諸君の目前に迫った研修医からの10年間は手抜きをせずじっくりと確実に研鑽を積む時期です。知らないことはやり過ぎず、知ったかぶりなど禁物で、どん欲に知識や技量を吸収する姿勢が必須です。常に患者の訴えに耳を傾け、体に触れ、治療方針を立てる。我々外科医にとっては手術技量を磨くことは永久に続きますが、その中でも30才代はひととき積極的かつ闊達で、どん欲な修練姿勢が求められます。厳しい修練を終えた後の40才代は外科医として心技体共に最も充実し、臨床経験に根ざした新しい術式や治療法の開発の挑戦が始まる時期です。研究にも熱心であり、机上の空論でなく経験から導き出された本当に必要な研究プロジェクトが生まれます。

病人に休みがない以上、昼夜を分かたず患者にへばりついてはじめてから終りまで診とどけることは臨床医としての質を高める重要な姿勢です。自分が病気をしたとき、どのような医者に診てもらいたいかを考えれば自明で、そのような医者の存在を頼もしく思います。医療訴訟が多くなっていますが、それに巻き込まれるのはある程度避けられないところがあります。アメリカでは訴訟の対策に毎年医師が支

払う保険料が年収の10%、科によっては1000万円を超えています。訴訟という不快な経験をしないためには患者や家族に医師としての信頼を得ることが何よりも重要であり、それには昼夜を分かたず患者を誠心誠意診ることです。

多くの患者を診て経験を積むことは、受験勉強のように容易にはとりもどせない確実な差を生みます。一つの疾患であっても病態は多様です。いろいろな手術で、特異的な合併症の発生率は多くても5%以下ですが、一つの疾患で10例しか経験のない医者で1000例の経験を有する医者と比較するとき、10例では特殊な病態をほとんど経験できませんが、1000例では発生率0.1%の合併症が経験され得ます。医者にとって臨床経験のこれほどの差は、野球でいうと草野球とプロ野球との差に匹敵します。患者は皆、プロフェッショナルに診てもらいたいと思っています。大都市ではいずれの病院も患者獲得を目指して患者本位の姿勢を理念のトップに据え、いろいろな患者サービスが企画、実践され、病院の良否の目安のごとく競われています。この根底には我が国の場合、病院過剰、医師過剰があることが問題ですが、患者にとって悪いことではありません。しかし患者が求める本質は自分の病気を治してくれることであり、プロフェッショナルの医者に診てもらいたいという願望は古今東西変わりありません。病院をいかに新しくしようと、受付が親切であろうとなろうと、“患者様”と呼び変えても、そのような些末なことで患者の医療に対する本質的要求懐柔できるわけはありません。患者のこの期待に応えられる医者になるのに楽な方法などありません。繰り返しますが、労を惜しまず患者に接し、患者の求める“いい医者”になることを期待してやみません。

(外科学第一講座 教授)



## 第7期生を送るにあたって

看護学科第4学年担当 新開 淑子

看護学科第7期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学年担当教官として、心からお祝い申し上げます。4年間の長きにわたって学業や課外活動に励み、多くの経験を積み、無事学位記(看護学)を手にした今、感慨無量であると同時に将来への期待と不安にさいなまれているのではないかと思います。

近年の飛躍的、加速的な医療の進歩や社会変化は、看護学の人材育成においても、人々の健康生活のニーズや社会的ニーズの変化に着実に対応できることを求めています。それは、患者の権利意識の向上や、より安全で質の高い看護の提供、グローバル化時代における国際性を持った質の確保を求める声に応えることを意味しています。社会が求める皆さんへの期待は大きいのですが、大学での学びを糧に、今後看護師、保健師として、大きく羽ばたいていかれることを願っています。

皆さんが医療の現場で遭遇するであろう様々な困難に果敢に立ち向かっていかれるために3つのことを伝えておきたいと思います。

一つは、以下のことに気をつけながら、「学ぶ心」を持ちつづけてほしいということです。

1) 情報におぼれるのではなく、まず自分の頭で考えること。

2) 知識は単に得ればよいというものではなく、知識を積み重ねて理解していく中で、知識を知恵に昇華させること。

3) 「わかること」と「わからないこと」をはっきりさせ、「わかったつもり」にしないこと。

4) 物事を多面的にとらえること。人の意見を簡単に受け入れてしまわずに、批判的にとらえ直すこと。また自分とのかかわりの中で、それがどのような意味をもつかを考えること。

二つめは、思いやりのあるケアを行なうために、自分たちの内面に生じる感情を十分に理解し、自己感情のコントロールを心がけてほしいということです。ケアする側の心身が疲労していると、自分の身体や心に注意が集中し、他人の心まで配慮する余裕がなくなるため、相手の心に共感することができなくなるからです。ケアの負担が高まり、ケア場面を否定的感情が支配すると、ケアはストレスとなっていきます。このストレスに対して身体や心は反応し、防衛本能を働かせて均衡を保とうとします。ところが一定の均衡が維持できなくなると、さまざまなストレス反応が生じてきます。ケアに携わる人

たちは、自分自身の状態をモニターすること、つまり感情の状態、物事のとらえ方、生活パターン、対人関係などを自己チェックし、ストレスを管理することが大切です。また、否定的感情への対処として、自分が体験している感情を認識し、どんな場面でどんな感情を体験しやすいかを理解し、また自分はそのような否定的感情に弱いかを理解することで、ケアによって生じる否定的感情のコントロールを試みてください。

三つめは、ケアという行為を通して、自分自身を磨き、人格の健全な成長につなげてほしいということです。ケアが人格にもたらす影響として、心理学者Allport, GWらは次の6つを指摘しています。1) 自己感覚の拡大: ケアを受ける人の世界(彼らの苦悩ややさしさなど)を知ることや、疾患やケアに関する知識を学ぶことで自己感覚が拡大する。2) 情緒的つながりの深化: ケアの現場は相手の言葉や感情によって、気持ちよくなったり不快な気持ちになったりする。3) 感情の受容とコントロール力の向上: ケアする人はさまざまな否定的感情との闘いを強いられ、わきあがる感情を心に納めケアを遂行していかなければならない。4) 現実検討能力の向上: ケアには、ケアを受ける人に関する知識、ケアの方法や技能に関する知識、ケアを受ける人の反応への応答など、さまざまな知識や技能、忍耐が必要になるが、それらを取り入れていくことで、ケアをする人自身の現実検討能力の向上につながる。5) 自己把握能力の向上: ケアをするときには、自分自身の態度や言動に注意を払わなければならない。なぜなら、自分の些細な言動が相手の心を傷つけてしまうことがあるからである。6) 人生哲学の獲得: 前記1)~5)の過程で、これらの活動を統合するための理念や目標が必要となり、それらがその人個人の人生哲学となる。

最後に、近年看護学も専門分野化しており、あなたがたもいつしか自分の進む道を選択していかなければなりません。学問における専門性とは、視野が狭くなるのではなく、本来専門性が高くなるほど裾野が広がり、頂上からは遠くを見とおすことができるような視野が広がったものでなければならないと思います。第7期生の皆さん、どうか専門家であると同時に、問題に対して具体的に良識ある判断がくだせる一般的な知恵を持った医療人に成長されることを期待しております。

(看護学講座 教授)

## 感謝

医学科第28期卒業生 大久保 祐 樹



卒業にあたり、お世話になった皆様に心から御礼申し上げます。また、順境とはいえなかった自分を支えてくれた仲間達、母、祖母にも深く感謝しています。6年間ありがとうございました。

6年前、少しの緊張と体中いっぱいの期待で旭川にやってきました。何もかもが新鮮だった一年生の頃です。二年生になると部活に夢中になり、アルバイトも増やさなければならなくなり、勉強はついていくのがやっとでした。そんな中、解剖学実習がやってきました。厳粛な雰囲気、初めて目の当たりにした御遺体、あの薬品のにおいは忘れられません。献体してくださった方々、ご遺族の方々への感謝も決して忘れてはならないものです。

三・四年生では臨床医学の講義が始まりました。医学の奥深さに圧倒されながらも、学ぶ喜びでいっ

ぱいでした。もっとも、試験の前はいつも、いっぱいいっぱいになっていましたけれど。この頃、チューターを務めてくださった一人の教官に出会いました。非常に厳しい方でチュートリアルの日もいつも暗い気持ちになるほどでした。後には実習で心電図の読み方も教わりました。厳しい指導の背景には「今後医師として担わなければならない責任の重さ」があったのでしょう。自分の甘さを痛感し、医学・医療を学ぶ気持ちをあらたにしました。このような機会を与えてくださった、今は天国にいらっしゃる先生に感謝しています。

五・六年生では病院実習で多くの方にお世話になりました。涙を浮かべながら仰ったある患者様の言葉を忘れられません。非常に予後の悪い癌であると診断がついた方でした。「自分達が頼れるのはあなた達しかいない。どうか一生懸命頑張って良いお医者さんになってね。」

アリストテレスは、すぐに古びてしまうものは何かと問われて「感謝だ」と答えたそうです。自分はそうはありたくない。感謝の気持ちを忘れず、良医とは何か、常に考え、行動していきたいと思います。

## 卒業にあたって

医学科第28期卒業生 矢野 絢 子



先日ようやく国家試験を終えて、今ほっとした気持ちでいっぱいです。6年間の大学生活を振り返ってみるとものすごく早かった感があります。勉強にしろ部活にしろ、その間にたくさんの思い出があり、私を大きく変えてくれた仲間を持つことができました。この大学に入学するまで、本当に医師になるということが不可能に近かった私が、その切符を手にすることができ、半信半疑で入学式に出席したことが昨日のこのようです。

今思い出すと、大学生活では勉強というよりは部活や友人との付き合いの思い出のほうが強く残っていることに気づきます。部活で一緒にトレーニングをした仲間や飲み仲間、ポリクリを一緒に回った仲間や国家試験と一緒に乗り越えてきた仲間。そんな様々な人たちとの出会い、そのつながりをこれから

も大切にしていきたいと思っています。

私には妹がいます。命に関わる程重いものではないのですが、小さい頃からある疾患を持ち、今も治ってはいません。見た目にもわかるので、小さい頃から本人は精神的にも非常に苦勞していました。それをただ見ていることしかできなかった私は何かの可能性を考えて将来医師になれたらと考えました。これからどうなるかは分からないけれど、そういったことに携わっていったらと考えています。

これから本当のスタートを切るわけですが、今マスコミで騒がれているようにこれから待っている多くの責任に不安はあります。特に医師という仕事は今誰であっても責任を負う可能性のある仕事です。しかし、医療に携わる者の一人としての責任を感じながら、人に優しい医療人を目指していきたいと考えています。最後になりましたが、私をこんな遠くまで大学に出していただいた両親をはじめ、ポリクリ中や授業でお世話になった先生方、悩んでいた時そばで支えてくれた友人達に感謝しています。6年間本当にありがとうございました。

## 卒業にあたって

医学科第28期卒業生 墓地本 宙 己



早いもので、旭川医大に入学してから6年が経とうとしている。入学したときのことがまるで昨日のこのように感じられ、卒業の時は迫っているのが信じられない程である。それでも、思い起こしてみれば6年間で本当に多くの体験をしてきた。講義からも多くを

学んだが、部活や課外活動、臨床実習を通した沢山の人々との出会いが、かけがえの無いものだったということであらためて強く感じている。

まだ新入生だった頃、大学生活のイロハを教え導いてくれたのは当時の先輩方だった。先輩方はいつも大きな存在だった。良いことも悪いこと(?)もみんな先輩方から学んできたものである。今考えてみるとあの頃先輩方から学んだことは生きていく上でも実に大切な智慧だったのだ。

先輩と呼ばれるようになったとき、自身を振り返るということを教えてくれたのは後輩達だった。そ

して本当は自分が助けなければならない立場であったのに、実はいつも後輩達に助けられてきたのだった。なんと不甲斐なくそして幸せな先輩だったことだろう。

苦楽を共にしてきたのは同学年の仲間達だった。地獄のような試験を乗り切れたのはひとえに仲間がいたからである。幾度も死線を彷徨ったが、何とか一緒にここまで辿り着くことができた。戦友と呼ぶべきであろう。

物事を突き詰め、真理を追究することの楽しさを教えてくれたのは基礎医学の先生方だった。研究室にこもり徹夜で実験してヘロヘロになりながらも、結果が出たときの喜びは何物にも替え難いものであった。

臨床実習で出会った患者さんたちは皆それぞれに個性的だった。向き合い、共に歩むということの本当の意味を教えてくれたのは他でもなく彼らだった。心が通ったと感じたときは身震いするようだった。そして勿論、臨床医としての心構えは第一線に立つ医師達から学んだ。

言い尽くせないことは多いけれど、支え導いてくれた全ての人々に感謝して私は旭川医大を卒業する。本当に有難うございました。

## 卒業にあたって

看護学科第7期卒業生 本間 未央



四年前の春、大勢の先輩方から部活勧誘やちらしの山に圧倒され、右も左もわからないままスタートした大学生活。いつしか、私は部活勧誘をする立場になり、こうして卒業を迎えました。今あらためて振り返ってみても、本当にあっという間の4年

間でした。

学年があがるにつれ、「私は看護職に向いていないのではないか。」という不安も大きくなっていきました。しかし、まわりには、私と同じような悩みを抱えた友人たち、アドバイスを下さる先生方がいて下さいました。病棟実習では、患者様との関わりを通して人と触れ合うことの素晴らしさを実感しました。また、病院スタッフの方の中には自分の目標となるような方との出会いもあり、多くのことを学ぶことができました。

私が看護職者に向いているのかどうか、この答えはまだ出ていません。しかし、向き不向きが問題ではなく、看護職者になるにはどうしたら良いかを考え、いかに成長していくかが重要なのではないかと卒業を目前にした今は思っています。

私がこうして卒業を迎えることができたのは患者様の笑顔や言葉に励まされ、先生方に的確なアドバイスを頂き、一緒に悩み励ましてくれた友人たちがいるからです。いつまでも、私は多くの方に支えられて生きていることを忘れずにいたいと思っています。

4年間で愛着のわいた学校や大切な友人、先輩や後輩と離れ、看護職者として仕事をするに不安はありますが、4年間で培った学ぶ姿勢と人への感謝の気持ちを持ち続け、これからは新たな土地で成長していきたいと思っています。

病棟実習で関わらせて頂いた患者様や御家族の方、ご指導して下さいました病院スタッフや先生方、一緒に笑ったり泣いたりした友達、何度お世話になったかわからない食堂やホケカン、精神的にも経済的にも支えてくれた家族など今まで私を支えて下さった多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

## 卒業にあたって

看護学科第7期卒業生 山下 萌



早いもので、大学生活がもうすぐ終わりを迎えようとしています。私は、AO入試の第1回生としてこの大学に入学しました。入学当初は、大学に合格することはできたけれど授業について行くことができるのだろうか、自分の選択は間違っていた

のではないのだろうかと悩んだ日々もありました。しかし、“看護師”という幼い頃からの夢を絶対に叶えてみせるのだという強い思いや、家族・友人・周りのたくさんの方の支えがあったことによりここまで歩いて来れたような気がします。

この4年を振り返ってみると、実に多くのことを学び吸収することができましたが、何よりも“考える”ということの大切さを実感しました。病棟実習において看護過程を展開して行くためには考える力が非常に要求されました。患者さんに関する情報

を収集し、必要な看護援助を考え提供、評価する。机上で看護過程を学んでいた頃はとても単純な事のように思えました。しかし、いざ実習が始まると、目の前で起こっている患者さんの状態に振り回され何を行ったら良いのか分からなくなっていました。今になって考えれば、自分が何も考えずに行動していた証拠であると思います。患者さんに起こっていることを理解した上で、どの様な援助が必要であるのかを十分に考えなくては、患者さんにとって的確で根拠のある看護援助が提供できないということを学びました。何をしたら良いのか分からないのではなく、自分が何をやるべきなのかまずは考えるということが患者さんへ看護援助を提供するための第一歩になるという事を実感しました。

卒業が目前になった今、学生生活が終わってしまうことが名残惜しくも感じられます。この4年間に学んだ様々なことを生かしつつ、考え行動することのできる看護師になることがこれからの目標です。

また、多くのご指導をいただいた先生方や実習でお世話になった病棟・地域の看護職の方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

平成17年度 課程博士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
小泉一也	平成17年6月30日
間宮敬子	平成17年6月30日
菅原亮一	平成17年6月30日
石関哉生	平成17年6月30日
斉藤亜呼	平成17年9月30日
伊藤貴博	平成17年9月30日
山本雅大	平成18年3月24日
肖寧	平成18年3月24日
馬木提吾拉木	平成18年3月24日
中西京子	平成18年3月24日
福田光子	平成18年3月24日
井上充貴	平成18年3月24日
清水紀之	平成18年3月24日
中村聡喜	平成18年3月24日
岸部麻里	平成18年3月24日
長門利純	平成18年3月24日
李曉正	平成18年3月24日

平成17年度 論文博士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
高橋啓文	平成17年6月30日
原田広	平成17年6月30日
岡本聡	平成17年9月30日
田中淳美	平成17年9月30日
佐々木禎仁	平成17年9月30日
浅田秀典	平成18年3月24日

平成17年度 修士学位記授与者名簿

氏名	授与年月日
八代樹依	平成18年3月24日
澤田みどり	平成18年3月24日
中村聖子	平成18年3月24日
田中惠美	平成18年3月24日
高儀郁美	平成18年3月24日
永谷智恵	平成18年3月24日
米地真弓	平成18年3月24日
升田由美	平成18年3月24日
神成陽子	平成18年3月24日
野村理賀	平成18年3月24日
作並亜紀	平成18年3月24日
留畑寿美江	平成18年3月24日

## 一年を振り返って



医学科第1学年 後藤 和海

日々、大学への通学路を歩いていると一面の雪景色が続いています。夏の緑の世界からは想像もつかない冬真っ只中の銀世界です。

そして今、2月になり後期試験が目の前に迫っています。

思えば本当にあっという間の一年が経とうとしていると感じています。

これは、この一年が初めてのことばかりで右も左もわからずに懸命に日々を過ごしただけでは無いと思っています。

つまりは、充実感です。

振り返れば、間違い無くこの一年が充実した日々を送った一年であったと言えます。

4月、東京出身の私は、桜がこの時期に咲くことを当たり前のこととっていました。だから、桜の「さ」の字も見えない残雪が残る(雪の降る日もあった…)入学式は新鮮で、まだ見ぬ学生生活に希望と不安を胸に抱きながら、大学への道を「ギューギュー」と力強く雪を踏みしめながら歩きました。

その一步一步に自分がこれから迎える、人生と言う名の道に想いを込めていたように思います。

5月には所属する部活(スキー部)も決まり先輩とも打ち解け、授業の要領も掴めてきたと思います。6月には医大祭があり、部員が一丸となり一つの物を作り上げるという機会を初めて経験し、やり

遂げるという達成感と同学年の仲間たちとの友情を手に入れることが出来たと思いました。

部活動を通じて信頼関係を築くことや、物事を成功に導くために団結して努力することは、医師になる将来に必ず生きることであり、特に21世紀はチーム医療の時代であると考えるので直の事だろうと思いました。(大学の勉強は机上の学習のみでは無いと言う事です。)

7月に入り、大学生として初めて「中間試験」という名前の試験を体験しました。その時期は、図書館で勉強している時など部活の先輩が差し入れに来てくれたりして高校の時とは違う雰囲気になんか温かさを感じました。

8月、夏休みに実家に帰るや否やすぐに後期が始まって「前期試験」の勉強に追われる日々となり9月を迎え、あっという間に試験が終わってしまったようで、その間は図書館で生活していたような一ヶ月でした。

10月には初雪が降り気候の違いに感動すら覚えました。11月、12月と本格的に冬がやって来ると雪の量も増えて部活も忙しくなり、冬休みには毎日のように部活に励みました。(…勉強も手を抜かず頑張った…。)

そして今、入学式の時に胸に抱いた、希望の芽は枯れずにしっかりと私の中で根を伸ばそうとしています。(まだ花は咲きません。)これから、進級して卒業しても同じように根を伸ばすことに努力して、少しずつ少しずつ空に向かって高く力強く成長して行きたいと思っています。(その環境を旭川医科大学は用意していると思っています。)

## 一年を振り返って



医学科第1学年 谷内 裕輔

人生で初めてスーツというものを着て、四月なのに桜ではなく雪がまっていた旭川医科大学の入学式からもう少しで一年がたとうとしています。思い起こせば、あっという間に過ぎていった一年間だ

ったように思います。そんな自分の一年を振り返りつつも紹介したいと思います。

石川から北海道へとやってきて、一人暮らし、大学での勉強、全国各地から集まった同期の新入生たち…。何もかもが新しく、今までとはまったく違った環境へと変わりさすがに不安や緊張を感じたことを覚えています。しかし、一緒に大学生活を送る中で親友と呼べるようなすばらしい友達ができました。ともに悩んだり、ともに遊んだりと一緒に時間

を共有してきたことで入学当初に感じていた不安や緊張など今やみじんもありません。バカなことを言い合って楽しく過ごす毎日です。彼らのおかげで自分の大学生生活が充実していると言っても過言ではないと思っています。

また、大学での部活でもほんとに多くのことを学ばせてもらっています。それは単なる部活の技術といたものだけではありません。先輩の後輩に対する厳しさや優しさ、何かに向けてひたむきに努力する情熱など数多くのことを教えてもらっている気がします。部活で経た経験によって勉強しているだけでは得られないことを学び、人として成長しているように感じます。

たった一年の間に、ここだけでは紹介しきれないことを数多く体験してきましたがその本質は「学ぶ」ということだと思っています。この旭川医科大学で学んだことは将来医者として自分にきっと役立つことばかりだと思っています。残りの五年間も学び続ける姿勢を忘れずに頑張りたいと思います。

## 一年を振り返って

看護学科第1学年 森田 麻美



人生チャレンジだ！と思って受験したAO入試に思いがけず合格して、2005年4月、札幌から旭川にやってきました。あれからもう1年が経とうとしています。私の高校からは入学者は私しかいなかったもので、友達なんているわけでもなく知っている人すら、いませんでした。でも札幌だけにはとどまりたくない、もっと地方に輪を広げたいという希望があって、この旭川医科大学を受けたので、私にとっては友達も知人も誰一人いない状況は全く不安ではありませんでした。むしろ、どんな人達と出会えるのか楽しみでした。

入学式はあっという間に過ぎ、次の日からは「新入生歓迎合宿」という合宿がありました。入学していきなり何をしに行くのかと少し不信感がありましたが、この行事は今1年を振り返ってみると1番楽しかった行事でした。この合宿のおかげで友達もたくさんできたとし、先輩たちともたくさん知り合えた

し、いい部活にも入部することができました。

私がこの大学に来てよかったと思ったことは、やっぱり色々な人と出会えたことです。北は北海道から、南は沖縄まで様々な地域から同じ大学に集まり、そして年齢層の幅も大きくて驚きました。この大学に来て、色々な地域の人達、色々な年齢の人達と知り合って私の視野や人生観を大きく広げることができたと思います。

勉強の面では、看護師という夢がもう確立していて、その夢に向かっての勉強なので多少忙しくても、1年生は他の学年に比べて楽だということもありますが苦ではありませんでした。部活も、練習は楽しいし、北海道を出て遠征に行ったり、色々な行事があったりと、高校の部活とは全く違った充実感があって楽しかったです。

こんなに早く過ぎた1年は初めてです。1年がものすごい充実していたから、そう感じるのだと思います。私が毎日楽しく充実した生活を送れるのは、大学に通わせてくれている両親、一緒に夢をかなえようと頑張る友達、それを支える先生方や、先輩たちがいるおかげです。全ての人達に感謝して、卒業までのあと3年間、1日1日を大切に、いい大学生活を送っていききたいと思います。

## 一年を振り返って

看護学科第1学年 山本 絵莉奈



昨年の春、期待と不安を胸に迎えた入学式からもう一年が経つのかと思うと、時間の経過の早さに驚かされます。この一年間は、毎日が新しい発見の連続で、学ぶこともとても多く、本当に充実した一年だったと思います。

この一年を振り返ってみると、本当に様々な事がありました。新入生歓迎合宿では、先輩が学校生活について親切に教えてくれたり、新しい友達がたくさんできたりと、新しい生活への不安は吹き飛び、期待でいっぱいになりました。初めての大学の講義は、高校の授業とは全く異なっており戸惑いを感じたことを覚えています。自己学習がとても大切だとわかり、一般的な知識から、医療や看護に関わる専門的な知識まで幅広く学ぶことができました。基礎看護技術学では、個人的に先生から指導を頂いたり、友達と一緒に指摘しあいながら練習を重ね、看護の

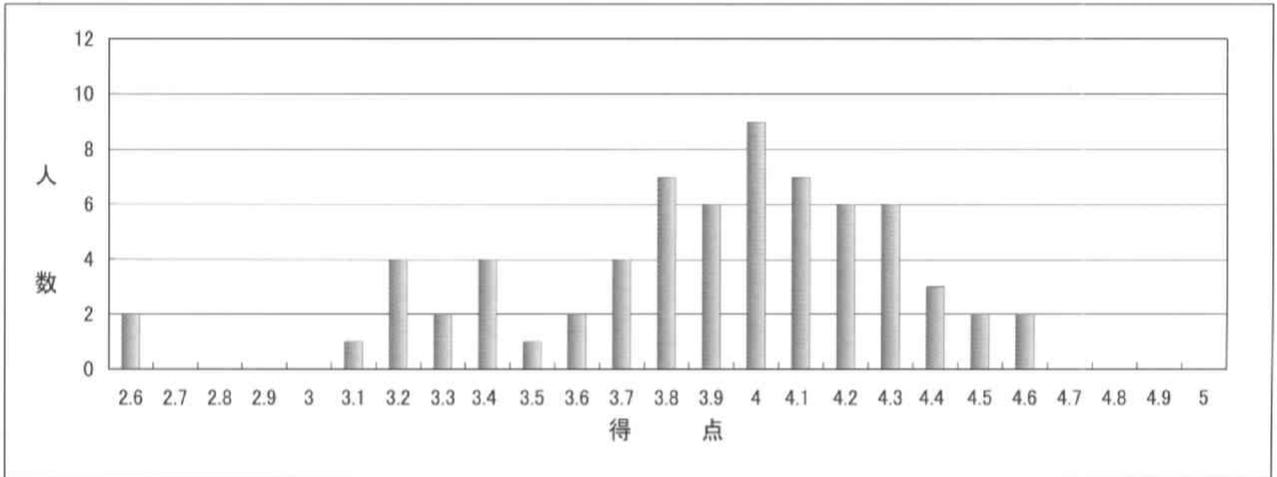
基本となる技術を身につけました。初めてのテストは、図書館で友達と励まし合いながら、ほぼ徹夜で勉強し、何とか乗り切ることができました。部活動では、練習以外にも様々なイベントがあってたくさんの思い出を作ることができました。後期になると、様々な実習に追われながらも、多くのレポートを書かなくてはならなくて、とても忙しくなりました。実習ではハムスターの解剖を行ったり、医学科2年生の人体解剖を間近で観察させてもらったりと、医学を勉強する上でとても良い経験になったと思います。また初めての病院実習では、実際の看護場面に立ち、患者さんとふれ合うことによって、入院生活と看護について大切なことを身をもって学ぶことができました。また看護師という仕事に、より魅力を感じ、今後の自分の課題も明確にすることができました。

残り三年間で学びたいこと、学ばなければならないことがたくさんありますが、まずは一日一日の生活を日々の勉強と考え、充実した毎日を送っていききたいと思います。

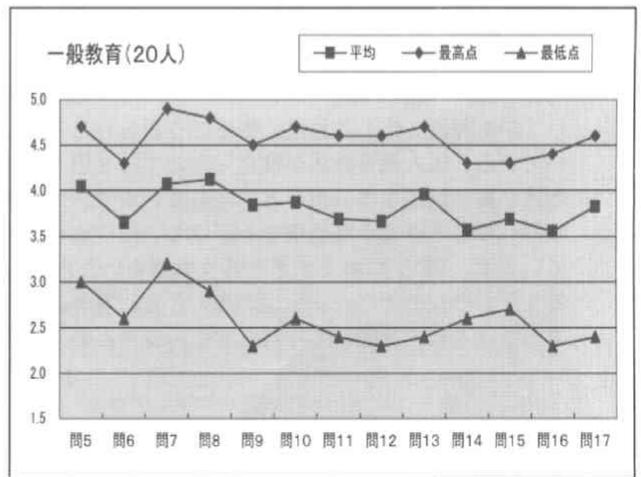
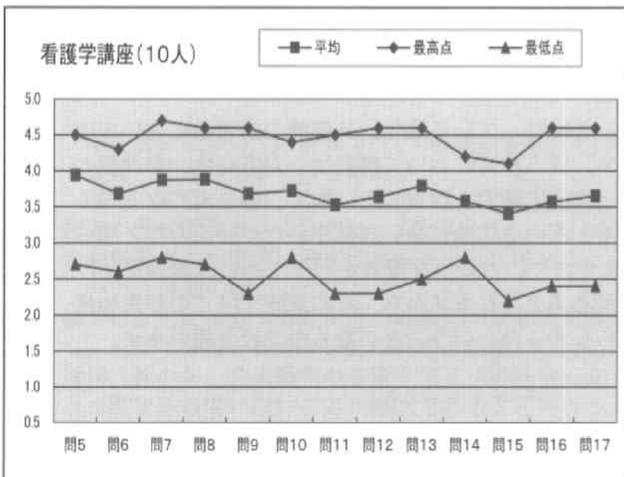
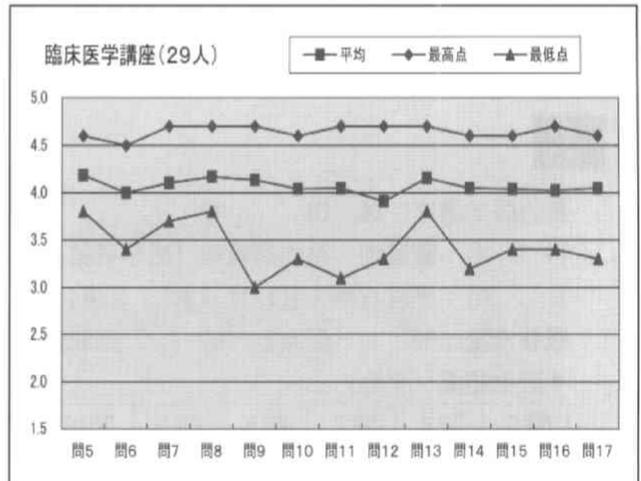
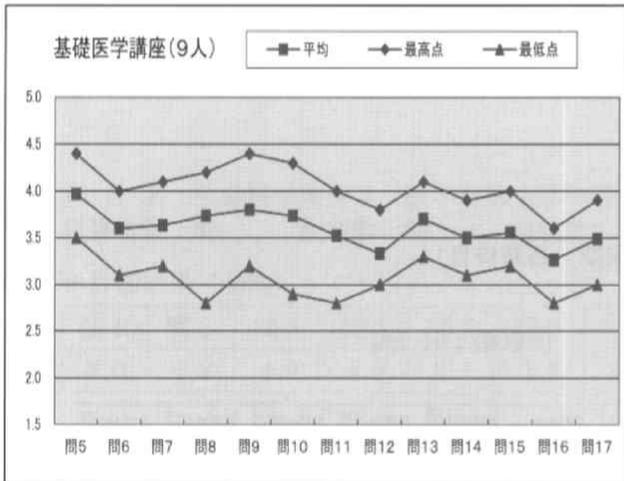
# 学生による授業評価(平成17年度分)の結果公表について

平成17年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数	2	0	0	0	0	1	4	2	4	1	2	4	7	6	9	7	6	6	3	2	2	0	0	0	0



## 問5～17までの各平均点と最高・最低点



## 講義に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5 各回の講義はよく準備がなされていましたか。 問6 履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7 教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。 問8 学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9 明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。 問10 教材（プリント・スライド・板書など）は適切でしたか。 問11 講義において重要ポイントを強調してくれましたか。 問12 学生の反応を確かめながら講義していましたか。 問13 豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。 問14 授業の難易度は適切でしたか。 問15 各回の講義内容は量的に適切でしたか。 問16 今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

### 1

救急医学講座 藤田 智

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修科目）

日時：平成17年5月19日（木） 3講目

履修者数：99 配布数：91 回収数：56 回収率：61.5%

\*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.5	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7	4.6

\*評価に対するコメント

救急医学講座 藤田 智

「学生評価1位」これは、素直にうれしいことでした。普段行っている蘇生、外傷等の講習会において用いている、成人教育技法が役立つのではと思っています。成人教育において講義は、双方向性、参加型の形式が高い効果を得られるといわれています。ですから一方的に講義を行うのではなく、皆さんになるべく参加してもらうような授業を心がけているつもりですので、その方法論に高い評価をいただいたのだと思っています。（学生にあてすぎと言う批判もいただいています）このような講義を行うためには講義を受ける人たちの、モチベーションが高いこと、質が高いことが必須となりますから、その意味ではこの形式の授業を受け入れて評価してくれた学生の皆さんが大変すばらしかったということになるのではと思っています。

## 2

麻醉・蘇生学講座 岩崎 寛

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修科目）

日時：平成17年5月19日（木） 2講目

履修者数：99 配布数：86 回収数：59 回収率：68.6%

### \*評価結果

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.5	4.7	4.7	4.7	4.5	4.7	4.4	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6

### \*評価に対するコメント

麻醉・蘇生学講座 岩崎 寛

麻醉蘇生学講座の講義は、私が旭川医大に赴任して以来、毎年の講義分の予定講義スケジュールおよび講義内容の要点を前もって一冊の小冊子として全学生に配布してまいりました。これにより、全講義の資料の分散を防げるとともに、資料に各講義の要点が記載されているので、必要最小限のスライドなどの資料や講義内容を加えることにより理解できるようになっている。また、復習するにもその要点が明確であるように資料を作成してあります。これらの資料に加えて、各医学生にとり、この講義の何が、どの程度臨床に必要とされているのかを熱意を込めて講義していることが評価されて大変嬉しく感じております。特に、入学以来もっとも面白い講義であった、やる気が出たなどの学生からのコメントは今後の励みになり今後にかして行きたいと思っております。

## 3

生命科学 林 要喜知

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修科目）

日時：平成17年7月15日（金） 5講目

履修者数：60 配布数：58 回収数：56 回収率：96.6%

### \*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.3	4.9	4.8	4.4	4.7	4.4	4.6	4.5	4.3	4.0	4.4	4.6

### \*評価に対するコメント

生命科学 林 要喜知

本講義を高く評価していただき、光栄に存じます。また、様々な質問やご意見下さり、積極的に学んで頂いた皆さんに感謝いたします。今年、新たに創意工夫したことは、配布するプリントをカラーで読みやすいものにして復習の便宜をはかったこと、質問カード（出席カードをかねる）に記載された質問や疑問を次回の講義時間までにプリントして全員に配布したこと、さらには、講義内容に関わる具体例やジョークを取り入れ内容の多面的な理解をはかったこと等がありますが、おそらく、これらの取り組みが高評価につながったと想像しています。しかし、各評価項目をみると、4.9と満点に近いものもありますが、4.0とまだまだ工夫できる箇所もあります。今後も、皆さんからの意見を参考に更なる授業改善に取り組みたいと存じます。それらにより、皆さんが学習意欲を高め、今後の看護学の学びにつなげていただければ願っております。

以下4. 3以上（上位20%内）の教員は次のとおりです。（\*五十音順）

所属名	教員名	科目名		日 時	学年	履修者数	配付数	回収数	回収率(%)
整形外科科学講座	熱田 裕司	臓器別・系列講義Ⅷ	必修	平成17年5月24日(火)3講目	医4	99	63	49	77.8
看護学科	伊藤 幸子	母性看護学	必修	平成17年6月30日(木)2講目	看3	61	53	53	100.0
保健管理センター	川村祐一郎	症候別・課題別講義	必修	平成17年8月29日(月)1講目	医4	99	79	40	50.6
脳神経外科学講座	國本 雅之	症候別・課題別講義	必修	平成17年6月16日(木)1講目	医4	98	68	45	66.2
外科学第二講座	河野 透	臓器別・系列講義Ⅳ	必修	平成17年8月26日(金)4講目	医3	104	100	65	65.0
麻酔・蘇生学講座	高畑 治	臓器別・系列講義Ⅷ	必修	平成17年5月25日(水)3講目	医4	99	89	66	74.2
非常勤講師	藤尾ミツ子	代謝栄養学	必修	平成17年9月5日(月)6講目	看2	60	58	58	100.0
小児科学講座	蒔田 芳男	臓器別・系列講義Ⅶ	必修	平成17年5月10日(火)2講目	医4	99	78	61	78.2
看護学科	升田由美子	基礎看護学Ⅱ	必修	平成17年5月13日(金)5講目	看2	60	59	59	100.0
看護学科	山内まゆみ	母性看護学	必修	平成17年9月1日(木)2講目	看3	61	49	49	100.0

### 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：臨床医学概論Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：103 回収数：97 回収率：94.2%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.6	4.1	3.3	4.2	3.9	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

\*評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅰコーディネーター 近藤 均

塩野副学長2コマ、黒田元学長1コマ、吉田貴彦教授ほか健康科学講座スタッフ7コマ、筆者が5コマを担当した。モデル・コアの「A. 基本事項」の発展的な内容と「F. 医学・医療と社会」の基本的な内容を扱う科目である。看板は「臨床医学概論」であるが講義の中身は基礎医学・一般教育のスタッフがおもに担当していて、いわば「羊頭を掲げて狗肉を売る」ような観もあった。教員の専門も価値観も大きく異なる「寄り合い所帯」だったとはいえ、評価は昨年に比べ0.3ポイントほど上昇し、なんとか合格ラインに達したようである。批判としては、「教員間の重複を減らせ」、「しゃべり過ぎでポイントがわからない教員がいる」、「スライドだけでプリントを配布しない教員がいる」、「試験が難しい」、「学生に対する発言が不適切な教員がいた」、「もっとコマ数が少なくてよい」、「予告内容と実際の試験とで内容が異なる点があった」などが目に付いた。今後は、「臨床医学概論」のⅡ、Ⅲ、Ⅳとの連携、「社会医学基礎」のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとのいっそうの連携を図り、無理・無駄・むらのない中身にしていきたい。

科目名：人間科学Ⅲ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：60 回収率：100.0%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.7	4.3	4.1	3.0	3.4	3.8	3.6	3.8	3.5	3.2	3.5	3.2	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

\*評価に対するコメント

人間科学Ⅲコーディネーター 谷本光穂

総合平均値が3.5と昨年とはほぼ同じ結果でした。この科目は物理学と化学から成り立っています。特に物理学については、高校では物理未履修が大半を占めている集団に、好きでもない大学の物理を教育することの難しさを実感しています。しかし、多くの学生は授業を楽しんでおり、内心安堵しています。ボランティアで行っているリメディアル物理講義が効を奏しているのかもしれませんが。来年からは高校新課程で教育を受けた学生が入学してきます。当分、リメディアル教育は欠かすわけには行かないようです。化学の講義は大方好評のようです。後期に実施される実習を通して、講義の内容の理解が一層深まることを期待しています。

科目名：生命科学X（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：53 回収数：46 回収率：86.8%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.0	3.9	2.6	3.8	3.4	3.6	3.9	3.7	3.6	3.6	3.8	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

\*評価に対するコメント

生命科学Xコーディネーター 若宮伸隆

本年度の授業評価点数は、過年度とはほぼ同等の中程度であったと判定される。今回の授業評価での問題点は、回答数であろう。必修科目である本授業の履修学生88名に対し、配布数53、回収数46は何を意味するのか。回収数が少なかったことに連動して、授業に対するコメントも2件のみであった。これらの数値と、本授業の前期末試験で36名の学生が再試験受験となったこととは、恐らくリンクしていると思われる。担当スタッフも授業内容の吟味に心懸けるが、それ以上に、学生諸君の履修動機付けに期待する。

科目名：生命科学VIII（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：85 回収率：98.8%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	3.5	3.5	2.7	4.0	3.9	3.8	4.1	3.5	3.4	3.8	3.7	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

\*評価に対するコメント

生命科学VIIIコーディネーター 鈴木裕

授業評価結果と記載意見から今後、複雑な代謝反応とその制御および分子レベルの異常と病態発症について重要なポイントをより理解しやすく明示するなど、生化学に興味と親和性を持って学習していただけるように改良したいと考えています。生命科学VIIIは生命科学IXおよび基礎医学Iといった一連の科目の出発点としてカリキュラムが組まれています。また生命科学VI（生化学実習）実施のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。残念ながら単位認定試験の結果および講義出席率から判断すると一般に、学習到達度は満足できるものではなく、上記の準備段階としての意義も薄れてしまっています。従って今後これらの問題点を克服するようにさらに工夫し、充実した学習成果があがるようにしなければならないと考えています。

科目名：人間科学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.7	4.1	2.8	4.4	4.5	4.2	4.4	4.0	4.3	4.1	4.6	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.6												

＊評価に対するコメント

人間科学Ⅰコーディネーター 林 要喜知

平均評価点が4.29であったことは、昨年度よりやや評価が高くなったと判断できよう。しかし、内容的にはまだまだ改善する余地があることも事実である。学生評価点の傾向から考えられる問題点の一つは、学生の子習／復習時間の不十分さが、講義内容を難易度を増したり、試験の量的負担が大きいという意識と対応しているところであろう。もしそうであれば、より積極的な学習態度を引き出す工夫、例えば、課題や小テストを課すなどの緊張感を持ってもらうことなどが、改善策の一つかもしれない。あるいは、学生が積極的に発言する参加型授業方式を取り入れていくことも、検討に値する取り組みであろう。一方、学生に質問する習慣を持ってもらいたいと始めた質問カードは好評であったので、今後も継続したいと考えている。

科目名：生命科学Ⅺ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：71 回収率：82.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.1	3.5	2.8	3.7	3.5	3.6	3.7	3.4	3.2	3.5	3.3	3.3
問14	問15	問16	問17	問18								
3.4												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅺコーディネーター 田中邦雄

本科目は開講3年目となったが、講義の進め方はほぼ同様である。評価内容を詳細に見ると、学生自身の評価としては例年と同様出席率は高いものの予習、復習は2.6、2.8と低めである。科目構成に関する評点は3.5～3.7と昨年より若干低下したが、回答者の半数以上が4以上をつけており、本科目企画の狙いは定着したものとする。科目内容については、例年通り問10の内容の理解が3.2と最も低い評価であり、意見記載欄でも指摘があった。物理学や工学的内容が含まれる他、最新の画像診断技術なども含まれ、2学年前期では身近なものとして捉えがたいためとも考えられる。総合評価は平均3.4と昨年（3.6）より若干低下したが、回答者の半数以上は4以上をつけており、まずまずの結果と考える。次年度は「もう少し理解しやすく」を念頭に講義を進めたい。

科目名：生命科学Ⅲ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：92 回収数：91 回収率：98.9%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.7	4.3	4.3	3.1	4.1	4.4	4.1	4.5	3.9	3.5	3.9	3.7	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

\*評価に対するコメント

生命科学Ⅲコーディネーター 山内 一也

生命科学Ⅲの授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。クラスをA組、B組の2クラスに分け、A組がコンピューターリテラシーを受けているときは、B組は統計学の授業を受けるといようにして、担当教員には負担増となるが、週2回の授業を展開した。「あなた自身について」という評価の項では、2.7、4.3、4.3、3.1という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テストを行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、4.1、4.4、4.1、4.5という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.9、3.5、3.9、3.7、3.9という評価で、前回評価よりも向上したと言える。「総合評価」では4.0という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。

科目名：社会医学基礎Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：90 回収率：98.9%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.6	4.2	3.9	2.6	4.4	4.4	4.4	4.5	4.3	4.5	4.4	4.1	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3												

\*評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅰコーディネーター 近藤 均

八竹学長に医学の入門講義を1コマ、石川病院長に病院医療の概説を1コマお願いし、他の13コマを筆者が担当した。モデル・コア「A基本事項」の(1)「医の倫理と生命倫理」に完全対応させた講義である。学生が大学授業にまだ新鮮な興味を失っていない1年生前期の講義のためか、熱心な学生が多く、授業はやりやすかった。今年度はとくに、敢えて早々と医師国家試験の問題を紹介して学生の動機づけを図った。評価結果はほぼ例年通りで、比較的良好であった。特に好評だったのは、教材用のプリントがよくまとまっていた、という点であった。批判的意見としては、「参考図書の紹介はもっと硬派なものを」、「プリントがあれば教科書は不要」、「覚えさせるのではなく、もっと考えさせる授業を」などがあった。相変わらず「社会医学基礎」のⅡ、Ⅲ、Ⅳとの連携、さらに「臨床医学概論」Ⅰ以降との連携が課題として残っている。来年度こそは実現させたい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）  
履修者数：101 配布数：101 回収数：87 回収率：86.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.1	3.9	3.4	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.9	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅶコーディネーター 藤枝 憲二

臓器別・系別講義Ⅶは、産婦人科、小児科、泌尿器科、小児外科の各講座が担当し、産婦人科学、胎児・新生児・小児・思春期における内科・外科疾患を理解することを目的として設定されたコースである。特にDevelopmental biologyの視点で理解が必要な小児科学講義が主に成人を対象とした各臓器別講義内に一部組み込まれたこともあり、統合した形で小児科学を提供できなかったことが、コース担当者にとって改善すべき点であると考えられた。しかし、本コースが広範囲で難しい授業内容であるにも関わらず、内容はよく、またわかりやすかったとする意見が多く、講義を担当したものの熱意とコースの意図が十分に理解されたものと判断される。授業そのものは学習すべき事項を提示するにとどまるものであること、また試験に合格することのみを目的とした授業ではなく将来にわたり有益な情報を伝えることを主眼としていることを理解し、より一層の自学自習が必要とされることを再確認してほしい。ただし今後当コース担当者における授業手法について事前の打ち合わせも必要であると感じた。

科目名：生命科学Ⅱ（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：93 配布数：93 回収数：93 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.4	4.3	3.1	4.0	4.2	3.5	3.9	3.3	3.1	3.6	3.5	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.5												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅱコーディネーター 谷本 光穂

総合平均点は3.6であり、昨年に比べて多少は改善されているようです。今年は、講義に演習問題を取り入れ、教科書の章末問題の大半は自分で解けるように指導したのが好評だったのかもしれませんが。それにしても、高校や予備校での受験勉強の体制が染み付いていて、問題解きをしないと安心出来ない体質は早く改善して欲しいものです。入学直後に実施しているリメディアル物理講義に参加している学生には少しは理解が深まったと思っています。来年からこの講義もやっと正規の1単位の授業として認知されることになり、また、高校新課程の初めての学生が入学してきます。その効果が今から楽しみです。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：106 配布数：105 回収数：87 回収率：82.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.6	4.3	4.2	3.8	3.9	3.6	3.7	4.0	3.9	3.8	3.9	4.1	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅳコーディネーター 葛西 眞一

当講義は、消化器病学の診断と治療について3内、2内、放射線科、1外そして2外の5診療科より、それぞれの専門医に出てもらって集中的に行うものである。従って、授業はポイントが決まっているので受け易かったと思われるものの、難易度に若干差が見られた様であるが、疾患の特異性にもよるのでやむを得ないであろう。それは、科目構成、内容の評価が4点弱であり、総合評価も4点を得ているので大略、良く講義されているものと判断される。試験問題は広い範囲を短時間で対応しなければならず、程度は易しいが勉強しなければ点が取れないのは当然で、約1割の諸君はもっと頑張る必要がある。

科目名：生命科学Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：89 回収率：97.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.3	4.3	3.4	4.1	4.0	3.8	4.4	3.8	3.9	4.1	4.3	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

本科目は生物学を主体とした講義で、生命科学Ⅱ～Ⅺの基礎となる導入コースである。昨年と同様に今年も、講義企画の総合評価で比較的良好な評価（4.2）を受けた。しかし、入試理科で物理を選択した学生達から「生物非履修者に対する配慮が足りない」、「講義内容が過大である」、「スライドの内容をプリントとして配布してほしい」などの指摘を受けたので、講義内容にさらなる工夫・改良を加える必要がある（特に一部の授業担当教員）。一方、「医学部らしいよい講義だった」との感想もあり（高校生物履修者？）、それらのギャップをどう埋めるかが難しい。入試理科3科目指定制やリメディアル教育の実施などの検討が急務である。また、時間割編成について、「チュートリアル期間中は週1の講義、その後は週7コマの講義では困る」（後半、自学自習が間に合わないまま試験に突入；病欠欠席の穴が大きい）の指摘も受けた。この問題については我々も以前から苦慮しており、教育課程編成委員会へ全体枠での改善を要求するつもりなので、いましばらく時間をもらいたい。

科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：84 回収率：97.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.0	3.6	3.3	3.7	4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅲコーディネーター 田中 剛

本科目では、医学科2年生を対象として医療コミュニケーションの基礎を講じました。評価についてのコメントということで申しますが、昨年度よりもかなりポイントが上昇しました。このこと自体は受講者の側の70%程の満足度と捉え、まだまだ改善の余地ありと感じています。すなわち、講じた者の立場からは50%の出来というところでは、前回との相違は、本年度は現時点でもっともバランスの取れた内容の教科書を厳選したこと、この内容を理解するための社会心理学の分野や応用可能な言語理論分野からの多様なテーマを、実際の医師と患者の対人コミュニケーションの背景に関連づけたこと、毎回のトピックを簡潔に、また、定義づけるべきところはできるだけ漏らさぬように配慮したこと、スクリーンに映し出し説明する内容をすべてプリントにして配布したことなどがあげられます。結局大部なものとなりましたが、将来に役立ててもらいたいものです。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：101 回収数：88 回収率：87.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.3	4.0	3.5	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.7	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

医療情報学コーディネーター 廣川 博之

医療情報学は昨年と同様に、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成した。これらはいずれも医療情報学で扱う重要な領域であるが、学生諸君から授業の時期が早すぎる、といった指摘をいただいた。臨床医学を学ぶ前に開講されるため、理解しがたい面があったかと思われる。

問5～14の項目はすべて3点台であった昨年度に比べると、いずれも評価が上昇している。しかし、科目内容の項目は今年も厳しい評価であり、来年度の授業内容の参考にしたい。

また、授業が終了してから試験までの期間が長すぎるとの意見が複数あった。今後の検討課題としたい。

科目名：臨床医学序論（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：101 回収数：91 回収率：90.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.3	3.8	3.4	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臨床医学序論コーディネーター 奥村利勝

昨年度から新規に開講された臨床医学序論は、初年度コアカリキュラムにそって医の倫理やインフォームドコンセント、医療安全管理などで構成したが、カリキュラムが一新されたことに伴い、より低学年や同年度の他科目との重複が多いとの学生からの意見が多く、抜本的に改変した。本年度からは臓器別系統講義に先立ち、臨床医学の全体像を大きく捉え、各診療科がどのような考えのもとどのような事を行っているのかを知る事を目的とし、臨床各分野から「内科学とは」「外科学とは」と言った各分野の総論の講義をお願いした。講義の性質上、試験はそぐわず、出席とレポート（興味を持った医学領域について記載せよ）で評価した。レポートをみると、多くの学生に多領域のインパクトがあり、特に麻酔蘇生科の守備範囲の広さを認識した学生が多かった。学生からの授業評価は総合で4.0であり、他科目との重複の指摘はなかった。来年度も同様な講義を構築していく。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：101 配布数：101 回収数：91 回収率：90.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.1	3.8	3.2	3.1	3.2	2.8	3.2	2.9	2.7	3.1	3.1	2.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.0												

＊評価に対するコメント

臨床放射線学コーディネーター 油野民雄

臨床放射線学は、放射線診断学、放射線治療学、核医学およびIVRより成り立っている。放射線・放射能を利用しているため、医療放射線の安全防護の観点からも、放射線物理学および放射線生物学の知識が不可欠である。このように、臨床各科と関係する学際的な領域のため、臨床検査学とともに、臓器別・系統別講義とは切り離された一つの独立した講義として存在する。一方、当大学の教育方針は統合科目を基本方針としており、また臨床放射線学で与えられた時間数は15時間に制限されている。この15時間の講義で放射線医学全般の講義が成り立っていることを理解していただきたい。即ち1年前期の生命科学Ⅱで放射線物理学、放射線生物学が、統合科目Ⅺで医用生体工学の一環として放射線医学に関連した重要な応用工学が行われており、このような知識の土台の上に、またその延長線上として放射線・放射能を用いた臨床が成り立っている。したがって、この講義終了後の試験は、放射線医学に関する知識の習得を確認する最後の機会のため、放射線医学全般に亘って実施している。学生諸君から得られた評価は、これらの点に関するものが多く、当然のことながら不評である。放射線医学を担当する責任者として甘んじて受けたい。しかし、講義のなかにはスライドを流すだけのものもあり、せめてプリントも配布して欲しいとの要望は当然であり、この点の改善には努めるつもりである。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：98 配布数：98 回収数：89 回収率：90.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.2	3.6	3.1	3.6	3.7	3.6	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅲコーディネーター 奥村利勝

本年度から新規に開講された臨床医学概論Ⅲは、他科目では行われていないが、臨床医になるにあたって是非知っておいてほしい領域を中心に構成した。これまで、コメディカルが自身の業務内容を紹介する場合は学部教育にはなく、私自身も学生の間に、この講義があれば、卒後役に立っていたのにとの思いもあった。今回様々なコメディカルの方（看護師、保健師、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、放射線技師、臨床工学士、メディカルソーシャルワーカー）に、自身の業務内容と医師との関係をお話していただいた。授業評価は総合評価3.6と高くないが、これはコメディカルの方以外の、私の講義も含めた結果で評価が低かったものと反省している。コメディカルと医師との関わりを理解する事はチーム医療の観点からも必ず将来役立つと確信している。講義の性質上、試験はそぐわず、出席とレポートで評価した。来年度もコメディカルの部分は同様に継続していく。

科目名：臓器別・系別講義Ⅰ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：106 配布数：105 回収数：91 回収率：86.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.5	4.0	3.9	3.6	4.0	3.7	3.6	3.8	3.5	3.6	3.8	4.0	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅰコーディネーター 菊池健次郎

循環器・呼吸器を内科・外科・小児科領域で網羅し4ヶ月で終了する臓器別・系別Ⅰに対する学生の評価は、ある程度妥当と認めざるを得ない。カリキュラムは、基礎から臨床、総論から各論へ展開するように組まれているが、1週間に数度の講義が集中する場合、日常臨床業務や出張・学会などでお忙しい先生方に、カリキュラムどおりの時間を空けていただくことは困難を極め、結果として総論・各論の順序の逆転が生じるなど、学生の混乱を招く要因となっている。集中的に終えることのデメリットとして認めざるを得ない。講義内容と試験問題の解離、プリント内容の充実を求める声、学生のレベルを超えた難解な講義に対する意見などは、それぞれ担当の先生方にフィードバックして改善を求めたい。ただし、学生諸君自らが努力すべき点も多く、最善のカリキュラム運用をいかに目指すべきかについては、学生の声を十分に踏まえた上で、次年度に向けて前向きな改善策を講じるべきであろう。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：100 配布数：97 回収数：83 回収率：85.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.5	4.2	4.1	3.6	4.2	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅷコーディネーター 岩崎 寛

この科目は、整形外科、麻酔蘇生科、救急医学講座で構成されている。全体的な評価は良好と考えるが、試験問題の分量が多いとのクレームが目についたが、全分野からの出題となるとこのような分量となったが今後検討したい。

麻酔・救急部門は講義の1冊子を用意していたが、整形はプリント配布の形態となっており、今後冊子化を進めていくことを考えている。

科目名：生命科学Ⅸ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：79 回収率：91.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	3.7	3.7	3.0	3.9	3.8	3.8	4.0	3.5	3.4	3.7	3.6	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅸコーディネーター 高井 章

- 担当教官の講義の進め方に関する設問である問5－問14については、同じアンケート用紙で行った昨年度の結果と比べおおむね0.1－0.3ポイント高く、平均でも3.6から3.7に上昇したことから、全体として、本実習科目が昨年度以上の成果を収めたと学生に評価されたものと考えられる。ただし、本科目がスタートした2003年度のアンケート結果の対応する設問についての平均ポイントが4.2であったのに比べると、今年度の結果は若干持ちなおしたものの、やや見劣りすることは否めない。（ただし、2003年度のアンケート用紙は、2004、2005年度とは問の内容と順序が微妙に異なる）
- 「理解のしやすさ」についての問10は昨年3.3ポイントで最も低かったが、今年も3.4ポイントとやや上昇したものの最低になった。全体として講義の内容がわかりにくいという印象はまだあるようである。
- 「自由記載欄」に書かれた意見には、昨年度同様、学習内容の分量の多さ、試験の難しさについてのものがほとんどであった。いかにして、豊富な内容を要領よく教えるか、という点になお一層の工夫が求められているようである。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：70 配布数：70 回収数：70 回収率：100.0%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.7	4.6	3.9	3.5	4.2	4.2	3.9	4.2	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

\*評価に対するコメント

健康教育論コーディネーター 望月吉勝

参加型授業を意図してPeer Lectureを活用してきたが、今年度も説明グループと質問グループを割り振り、事前学習のうえ、授業時に発表してもらうことを繰り返し行いました。説明グループには、保健医療の専門家ではない人に分かり易く、図解などをまじえながら説明するようにと指示しただけでしたが、ホワイトボードに図解→大きな紙に描いたものを追加→PowerPointでの図解を追加→PowerPointの動画機能を活用と、前のグループの工夫を加えたり、情報リテラシーで学んだことを活用するなど、創意工夫が見られました。質問グループも当初は枝葉末節な質問がありましたが、段々に要点をとらえた質問をするようになりました。また、保健医療の専門家でない人を対象と想定した健康教育教材づくりをグループで取り組み、中間発表で教材として優れている点や改善を要する点を指摘しあい、改良のうえ最終発表会を行いました。こうして繰り返し演じることにより、知っているだけでなく、相手に伝えて理解してもらうためのスキル習得を目指しました。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
- ④ やや思う（良い）
- ③ どちらとも言えない（普通）
- ② あまりそう思わない（あまり良くない）
- ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎医学実習Ⅱ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：102 配布数：102 回収数：99 回収率：97.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.8	4.5	4.4	4.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.4	4.1	4.0	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9	3.6	4.0	3.7	4.1								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅱコーディネーター 高井 章

- 本科目は、一昨年まで第2学年前期に45コマで実施していた「人体生理学実習」を、昨年度から第3学年前期に移動し90コマで実施しているものである。内容的には、従来通り「人体生理学実習」として実施した。部分的に第一内科および看護科教員の協力を得られたのはありがたかった。
- 実習の進め方に関する設問である問4～問14が平均で4.1と昨年度3.9よりよいポイントを得た。今年度は、最低でも3.5を下回った項目はなく、特に設問15は0.3ポイントの上昇の4.1で「全体として満足」と感じた学生が多かったといえる。
- 昨年度の「臨床診断手技デモ」は教員・学生双方から実施時期などに関し不満の声が多かったので今年度は廃止、その時間をレポートの作成期間などに充てた。それでも、問13が3.5（昨年度3.3）となっており、実習レポートをなお重く感ずる学生もいたようではある。しかし、レポート課題は昨年度と概ね同等であり特に過重であったとは思われない。一般に、このようなアンケートでは、実習レポートのように学生に「労力」を求める課題については、たとえ学習上意義の大きいものであっても、学生からの評価（むしろ人気）が低くなる傾向があるのはやむを得ないところであろう。
- 実習終了後に例年通り筆記試験を行ったが、これも実習に割当てられた期間内に実施した。これはかなり好評だったようである。

科目名：生命科学実習Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：80 回収率：93.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.7	4.3	4.0	4.3	3.6	4.0	3.7	3.6	4.0	3.9	3.9	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9	3.7	4.0	4.0	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅷコーディネーター 中村 正 雄

新しいカリキュラムのスタートに合わせ、生命科学実習Ⅷを構成した経緯と、その問題点を昨年指摘した。今年度の評価は、生命科学実習Ⅷのねらいを評価し意欲的に取り組んでいるが、生命科学実習Ⅷの構成の整合性と教員側の態勢（人員、設備）は不十分であるととれる。これはアンケートの意見と一致している。生命科学実習Ⅷでは、レポートを含めた科学的な表現能力の向上を目指しているが、これらが過重な負担ととられている。生命科学実習Ⅷの構成上の改善および実習のねらいを、再度学生諸君に説明する必要があると考える。

科目名：生命科学実習Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：86 回収率：94.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.9	4.6	4.4	4.6	4.0	4.7	4.4	4.1	4.4	4.0	4.1	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.3	4.5	4.5	4.5								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

このコースは、医学科学生が入学して最初に取り組む実習科目である。学生の自己評価では、出席（問2）と積極的かつ真面目な参加（問3）の評価が高く、教員もこの点は学生の自負するとおりと高く評価している。予習が不十分という学生の反省（問1）も毎年のことだが、この点での教員の指導はまだうまく行っていない。実習計画、実習内容、実習環境など教員側の企画（問4～17）の点では、昨年と同様に学生の評価が比較的高く、総合評価（問18）で4.5という評点だったので、今後も基本的には現行の実習形態を続けながら、小さな改善を積み重ねて行く予定である。実習と講義内容の関連性（問9）が不十分との指摘を昨年受けたが、今年はいくぶん改善された（3.7→4.1）。自由記述欄に「実習を週2回にし、チュートリアルでの自習時間を減らしてほしい」との希望があったが、これは大学全体のカリキュラム構成に関わる問題であり、教務委員会での議論をお願いしたい。

科目名：生命科学実習Ⅴ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：85 回収率：98.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.8	4.0	3.8	3.6	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.5	3.9	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6	3.8	4.0	3.9	3.7								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅴコーディネーター 高橋雅治

学生自身についての評価では、「積極的参加」と「取り組み」が高かったが、「予習」の評価は低かった。今後は、予習の指導につとめたい。

また、実習の計画、内容、環境についての評価は、全項目について「普通」から「良い」の範囲であった。評価が比較的高かった項目は、「指導者数」、「難易度」、「安全」であった。このことから、実習全体の難易度や指導者の配置等は適切であったように思われる。

一方、評価の低かった項目は、「スケジュール」、「レポートの量」、「意欲」等であった。また、自由記述欄では、主に社会学分野実習の必要性や重要性が理解できないというコメントが多かった。さらに、昨年度も、心理学分野と社会学分野の評価を分離してほしい、と言う意見が寄せられていた。これらの原因は、心理学、社会学、公衆衛生の実習をひとつの科目にまとめていること、及び、社会学分野の実習内容がいまひとつ整理されていないことが原因であると思われる。今後は、社会学分野の実習内容の見直し、及び、本実習全体の構成の見直しを行っていききたい。

科目名：基礎医学実習Ⅴ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：103 回収数：95 回収率：93.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.8	4.5	4.4	4.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.4	4.1	4.0	3.5
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9	3.6	4.0	3.7	4.1								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅴコーディネーター 立野正敏

昨年と類似したコメントをいただきました。大別すると

- 1) プレパラートの質が悪い。
- 2) 基礎Ⅰと関連した実習にして欲しい。
- 3) 臨床系講義と関連した実習にして欲しい。
- 4) 実習と試験との間がありすぎる。などでした。

昨年度から少しずつ、標本を交換して質の良いものに変えてはいますが、数が多いためなかなか進んでいませんが努力していきます。基礎Ⅰあるいは臨床系講義と関連づけるにはカリキュラムの関係で無理があります。むしろ基礎Ⅰでやった内容を再度学習するような気持ちで実習を行っていただきたいと思います。また、臨床系講義で興味を覚えたなら病理学教室へ来て標本をみることも可能ですし、組織が臨床所見にどのように反映するか（またはその逆）を自ら考える必要があります。試験に関しては基本的に知識の確認ですから何時行ってもかまわないのですが、学生の負担（他の科目）にも配慮すべきでした。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：103 回収数：96 回収率：93.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.7	4.4	4.4	4.6	4.1	4.3	4.2	4.2	4.4	4.1	4.2	4.3
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	4.1	4.3	4.3	4.3								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅳコーディネーター 若宮伸隆

実習開始時刻の厳守、実習中の服装や履物に関する規律の厳守など、学生諸君には、実習内容以外のことに関しても様々な注文をつける実習であったが、多くの学生諸君はこれを是とし、授業全体を好意を持って評価してくれたと思う。過年度までの評価に散見された「(インキュベーション等による)実習中の待ち時間が長過ぎる」とのコメントは影を潜め、「実習時間をもっと長くして、更に多くの病原体に接してみたかった」とのコメントが複数あったことも、本実習に対する学生諸君のスタンスの変化を示している。今後共、実習内容、実習方法の質の維持と改善に努めたいと思います。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.9	4.7	4.5	4.4	4.2	4.2	4.3	4.5	4.7	4.0	4.2	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.4	3.9	4.4	4.3	4.4								

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱコーディネーター 升田由美子

総合評価4.4、他もほぼ4以上の評価をいただけたことに安心している。本科目では、フィジカルアセスメントおよび注射・採血など看護実践に不可欠な基礎看護技術を学習している。問2、3の高評価に表されるように、学生自身の学習意欲が高く、積極的に授業に参加し、演習を行っていた。問10「配布資料が役に立った」が4.7であった。主体的に学習を進められるように工夫し資料を作成したことが、学習の一助となったことを教員一同喜んでいる。また、問11「技術を十分に習得できたか」については、講義時間内では看護技術を体験することにとどまり、習得には至らないという意見があった。まったくそのとおりであるが、まず一度看護技術を体験し、技術習得へむけての学習の仕方を学習することが重要なのである。この学年のみなさんはモチベーションを高く持ち続け、今後も看護技術の学習に取り組んでもらえるのではないかと期待している。

科目名：生命科学実習Ⅵ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：83 回収率：96.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.3	4.6	4.5	4.4	4.4	4.2	4.3	4.2	4.2	4.4	4.2	4.1	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	3.9	4.2	4.3	4.1								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅵコーディネーター 谷口隆信

問15（設備・機材）以外の項目は4点以上の評価であり、自由記載を拝見しても楽しんでいただけたようで、スタッフ一同また来年もという気持ちです。生化学の実習は酵素を自分たちで精製し、それを材料に酵素の性質を究めるべくアッセイをやっていく段取りになっているのですが、班の中でうまくチームワークを組んで全体の流れを見失わないように上手に分担していく必要があります。今回は皆さん予習をちゃんとやって要領よく実験を進めていて、スタッフからの評価も高いものがありました。チームワークは医療の現場で大変に重要なポイントであり、皆さんは将来良い臨床医になられるだろうと期待しています。機械類については確かに老朽化していますが、点検整備はおこなっていますし、分光光度計などは1台50万円はすることを考えると、現状は十分に許容範囲であると考えています。これは臨床でも同じことで、すべての病院にMRIやヘリカルCTは備わっていないと思います。そこにある機械を上手に使い、できる範囲で患者さんのために最善を尽くす、皆さんが大学を離れた時にこの実習のことを思い起こして頂きたいと存じます。

科目名：基礎医学実習Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：103 配布数：103 回収数：90 回収率：87.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.1	4.5	4.4	4.4	4.5	4.2	4.3	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.3
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.1	4.3	4.3	4.3								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅲコーディネーター 牛首文隆

基礎医学実習Ⅲの目的は、動物や標本に投与した薬物の作用を観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、薬理学に対する理解を深めることである。このため、実習内容は、丸ごとの動物を用いた実験から摘出臓器を用いた実験と多岐にわたる。今回の実習に対する評点は、すべての項目で4点以上と高いものであった。したがって、多くの学生は本実習に対して概ね満足していることが伺えた。アンケート調査では、機材の古さを指摘した意見が寄せられた。最新の機材よりも古典的な機材を用いた方が、測定原理や薬物に対する生体反応を理解しやすい場合もあるが、信頼性の乏しい機材については、順次新しいものに交換していきたい。今後もより充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたい。

科目名：生命科学実習Ⅶ（第2学年前期／必修）

履修者数：86 配布数：86 回収数：79 回収率：91.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.6	4.6	4.3	4.2	4.3	4.1	4.1	4.0	4.0	4.2	4.0	4.0	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	3.9	4.1	4.1	4.0								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅶコーディネーター 伊藤喜久

本年度も各担当講座のご協力を得て実施し、概ね皆さんに満足頂く実習ができたかと思えます。アンケート調査にもあるように、最近では予習する方が増え、積極的な姿勢で実習に臨んでおり、実習テキストのあらかじめの配布の希望も寄せられており、改善をはかります。一部、実習内容、レポートについて難しい旨の意見が寄せられています。これについては、意見のわかれるところですが、予習、復習をする、担当教員に積極的に質問するなどして、各自の努力により少しでも理解を深め、疑問点を解決して下さい。何年かたっから見直ししてみると、自分の成長が確実に掴めるはずですから心配はいりません。その他、いただいたご意見、要望事項を取り入れ、明年度もよりよい実習を目指す所存です。

## 体育実技企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 授業に毎回出席しましたか。 問2 授業中は積極的かつ真面目に実技に取り組みましたか。
授業計画	問3 授業はおおむねスケジュールに沿って行われていましたか。 問4 履修要項は適切なものでしたか。 問5 学生数に対して指導教員数は適切でしたか。 問6 指導担当者間の連携は適切でしたか。
授業内容	問7 各回の事前指導は、実技を行うにあたって適切でしたか。 問8 教員の指導は、技術を向上させるうえで適切でしたか。 問9 実技によって基礎的な技術を習得できましたか。 問10 要求された実技の難易度は適切なものでしたか。
授業環境	問11 実技用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問12 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問13 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：体育実技（医学科・看護学科前期選択科目）

履修者数：24 配布数：23 回収数：22 回収率：95.7%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.1	4.3	4.0	3.9	4.3	3.9	4.1	4.2	4.2	4.5	4.0	4.4	4.5
問14	問15	問16	問17	問18								
4.5												

\*評価に対するコメント

非常勤講師 杉山喜一

講義内容として、主として球技やバドミントン、スキーを中心とするスポーツ活動を中心とする実技のほか、適宜運動処方や体力作り等を導入した。学生自身の健康に対する意識や体を動かすことへの欲求が高かったこともあり、ほとんどの受講生は、授業に対して非常に熱心に取り組んでくれたと思う。授業態度や出席状況においても特に問題はみられなかった。今回の調査結果では、3.9～4.5の範囲で、全体の評定平均も4以上の評価が得られた。おそらく今年は比較的少人数による学生指導であったことや、講義内容についても、ある程度学生の要求を満たすものであったといえる。ただ選択によるスポーツ種目もある程度制限され、また施設不備の関係で予定の種目ができなかったことから、今後はこれらを改善していきながらできるだけ多くの学生のニーズに応えられるように検討していきたい。なお本年度から、スキー授業がはずれたため、30コマ1単位ということで授業内容もスリム化されたが、一部の学生よりスキー授業に対する要望が強く、この点なども今後の検討課題としたい。

## 看護学科野村教授最終講義

去る3月3日（金）16時00分より看護学科棟大講義室におきまして看護学科野村紀子教授の退職に伴います最終講義並びに歓送式が執り行われました。

当日は「看護学科設立の経緯」と題した最終講義が大勢の出席者の中で行われました。

また、引き続き行われた歓送式では八竹学長より歓送の辞が述べられ関係各位より沢山の花束が贈られて出席者の拍手により大講義室を後にされました。



△最終講義

歓送式風景▽



最後のご挨拶△



## 名 誉 表 彰

名誉表彰は、中期目標による「教育者として優秀な教員を表彰する制度を創設する」に基づき、本学職員表彰規程の運用に関する申合せを改正し、今年度から適用することになりました。

受賞の対象は、学会会議等での発表、専門誌等における掲載論文の評価が特に高いとされた場合や教育・研究及び診療上において、特に顕著な功績があった場合などとなっております。

去る3月3日に本学はじめての表彰式が学長室で行われ、八竹学長から優れた研究発表を行った薬理学講座を中心とした研究グループの代表者である牛首教授に表彰状と記念品が贈呈されました。



# 音楽系クラブコンサート



本学の音楽系クラブでありますプラスアンサンプルのクリスマスコンサートが平成17年12月24日(土)にギター部のニューイヤーコンサート

が平成18年1月23日(月)にそれぞれ開催

されました。両日とも入院中の方々や他にも沢山の皆様が

来場されて、両クラブの演奏にも

力が入った熱演が展開されました。特に最終学年である6年生は最後のクラブイベントということもあり大々熱演で盛り上がっていました。

プラスアンサンプルのクリスマスコンサート

ギター部ニューイヤーコンサート



# 外国人留学生冬季交流事業



平成17年度外国人留学生冬季交流事業が、2月3日(金)・4日(土)の両日にわたり本学に留学している学生とその家族、指導教員、関係担当教職員の計19人が参加し実施されました。

この事業は、北海道の冬のスポーツであるスキースキを通して雪や寒さの中での楽しみを知ってもらうと共に、留学生同士や留学生と教職員との交流を目的に、今回で6回目の実施となりました。



今回も初級者から上級者までが満足できる富良野スキー場で行い、午後から雪が舞う天気でしたが、留学生全員が元気に楽しめました。

また、夜は白金温泉の宿泊施設で交流会を実施し、終始和やかな雰囲気の中で、留学生が有意義な留学生活を送れるよう情報交換及び意見交換が行われました。

(学生課)



# 平成17年度 1年のあゆみ



入学式4月8日(金)

医学科入学者	90名
看護学科入学者	60名
看護学科3年次編入学者	10名



BLS+AED

新入生合同研修会  
4月18日(月), 19日(火)



手話の演習



救命講習

第31回医大祭  
6月10日(金), 11日(土), 12日(日)



体験コーナー



古本市



模擬店



フリーマーケット



開会式

第52回北海道地区大学体育大会  
(分担種目 弓道)  
7月9日(土), 10日(日)



表彰式



競技風景



競技風景



競技風景

音楽の夕べ 8月27日(土)



室内合奏団

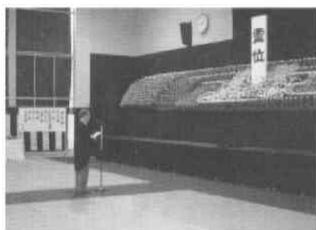


合唱部



ギター部

## 平成17年度 1年のあゆみ



解剖体慰霊式 9月21日(水)



医学科第2年次後期  
編入学生入学式  
10月3日(月)



国際染織美術館にて

外国人留学生  
秋季交流事業  
11月25日(金)



雪の美術館にて



優佳良織工芸館にて



旭川科学館サイバルにて

学位授与式 3月24日(土)

## 学生表彰者

- 平成17年度卒業者で学業成績が特に優秀な者 (平成18年3月24日(金)表彰)
 

医学科	藤井 瑞恵,	塩田 義彰
看護学科	服部 裕恵,	松本 恵子
- 独立行政法人情報処理推進機構主催「未踏ソフトウェア創造事業」受賞者 (平成17年8月15日(金)表彰)
 

医学科第5学年 奥村 貴史
- 全日本かるた協会主催 第12回全日本かるた大学選手権大会「大学代表の部」個人戦優勝 (平成17年10月11日(火)表彰)
 

医学科第3学年 田原 大地
- 東日本医科学生総合体育大会 ゴルフ競技 個人の部 6年連続優勝 (平成18年3月24日(金)表彰)
 

医学科第6学年 松尾 彩

## 各種保険について

本学が薦めている保険の概要は、下記の図のとおりです。

③ 学生・生徒総合保険A・Bタイプ ※3階部分	
内容	傷害・損害賠償を24時間補償&針刺し事故を補償
補償金額	死亡補償金 Aタイプ 500万円 Bタイプ 300万円 対人賠償 Aタイプ 5,000万円 Bタイプ 3,000万円 対物賠償 Aタイプ 5,000万円 Bタイプ 3,000万円 針刺し事故の予防・治療費補償 1事故 500万円
掛金	学生生活のしおりを参照してください。
加入の是非	看護学科/医学科第1～4学年 任意 医学科5・6学年 全員加入(臨床実習のため) ※学生教育研究災害傷害保険及び医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)に加入していること。
② 医学生教育研究賠償責任保険(医学賠) ※2階部分	
内容	正課中、学校行事中、通学中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償
補償金額	対人賠償 1名1事故1億円 対物賠償 1事故250万円
掛金	6年間 4,800円 4年間 3,200円※1年間800円
加入の是非	入学時全員加入 ※学生教育研究災害傷害保険に加入していること
① 学生教育研究災害傷害保険(学研災) ※1階部分	
内容	正課中、課外活動中、通学中及び学校行事中に本人が傷害等の事故にあった場合
補償金額	死亡補償金 正課中 2,000万円 課外活動中 1,000万円 傷害補償金 正課中 治療日数4日以上から 課外活動中 治療日数14日以上から 入院 1日 4,000円
掛金	6年間 5,400円 4年間 3,900円
加入の是非	入学時全員加入

詳細については、学生課学生生活支援係にお尋ね願います。

本学では、学生諸君の学生生活及び日常生活に対して上図のような保険を用意して、加入を薦めております。

①学生教育研究災害障害保険(学研災)は、学生生活中に負った本人の傷害等の保険です。全員加入としております。

②医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)は、学生生活中に他人から損害賠償を求められた場合の賠償補償保険です。全員加入としております。

③学生・生徒総合保険A・Bタイプは、日常生活24時間をカバーする傷害保険と賠償補償保険です。

加入は任意ですが、医学科5・6学年は臨床実習に備え全員加入としております。

## 平成18年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

申し込み方法はインターネット(スカラネット)による申し込みです。学生募集要項及び申し込み方法の説明会を4月10日(月)・11日(火)午後5時30分から第7講義室において実施します。希望者は集合してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生課学生生活支援係に相談してください。

## 平成18年度 前期分授業料免除及び延納・分納について

平成18年度前期分授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生課学生生活支援係から必要書類を受け取り、申請期間内に提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

○経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ学力優秀と認められる場合

○授業料納期前6か月以内において学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難であると認められる場合

なお、このことについては、公用掲示板にも掲示してありますので確認してください。

また、不明な点は、学生課学生生活支援係に問い合わせ願います。

申請期間 在学生 平成18年3月31日(金)

(期限厳守) 新入生 平成18年4月13日(水)

※授業料滞納者の授業料免除申請は、受理できませんのでご注意ください。

## 授業料未納による除籍について

授業料を2期滞納し所定の期日までに納入されない場合には、除籍となります。

この取扱いは、平成17年度から適用されていますので、平成18年4月1日において授業料を2期以上滞納している場合、平成18年9月30日をもって除籍

となります。

以後授業料納期である6か月ごとに適用されますので、授業料の支払計画をきちんと立てるようご留意ください。

(学 生 課)

## 学生等のセクシュアル・ハラスメント相談員

- ・学生等のセクシュアル・ハラスメントの相談員は次の方々です。
- ・任期は平成19年3月31日までとなっています。

☆一般教育 助教授 松 岡 悦 子

☆基礎医学 教 授 高 井 章

☆臨床医学 助教授 伊 藤 浩

☆看護学科 教 授 服 部 ゆかり

☆保健管理センター

助教授 川 村 祐一郎

保健師 藤 尾 美登世

(学 生 課)

## 新入生歓迎合宿のご案内

新入生歓迎実行委員長 谷 内 裕 輔

皆さんご入学おめでとうございます。我々、新歓委員は右も左もわからないであろう新入生のために新入生歓迎合宿というものを用意しています。日程としては、入学式の翌日からなので4月8日(土)、9日(日)に行います。気になる内容についてなんですが、まず、学内では学校見学、部活紹介、出店といった行事があります。ひとつずつ補足していきますと、学校見学では一年生で使う教室などを私たちが案内します。部活紹介はその名の通り数多くある部活が皆さんを勧誘しようと趣向をこらした部の発表をしてくれます。出店というのは部活などに自分のメールアドレスを教えたりする感じですね。そこでたくさんの部活に書いておくと後々いいことがあるかもしれませんよ！

続いて、ホテル「ときや亭」に場所を移します。

そこではみんなでご飯を食べたりと新入生同士の距離がぐっと縮まること請け合いです。また、学校よりもさらに積極的な乱入という部活勧誘があるので気になる部活にはどどん顔を出しちゃってください。

ここで書いただけではどんな行事かまだつかめないということも多いでしょうが、新歓用ホームページもあるのでぜひ一度ごらんになって下さい。この新歓合宿に参加したことがきっかけで仲のよい友達を見つかったり、自分にあった部活を決めたりした先輩も多いようです。参加して後悔させることのないよう我々新歓委員は入念に準備をしてきました。参加は必須ではありませんがぜひ参加してください！。

## 課外活動物品庫の整理

日頃より物品庫使用については整理整頓を注意しているところですが、一向にキレイに使用している様には見受けられません。今後、このような状態が続くようであれば、使用の制限を考えなければならないかもしれません。使用している各クラブは早急に関係用具を整理整頓してください。

なお、学生玄関ロビー及び周辺に放置してある物品は時期をみて撤去廃棄しますので併せて早急に整理するように願います。

## 学生団体の継続届の提出について

平成18年度4月以降に活動を継続する学生団体の責任者は4月中に学生団体継続届を学生課課外活動係に提出して下さい。継続届を提出しない団体は活動を停止したと判断し廃部とします。

なお、新規に学生団体の設立を希望する学生は4月中に学生団体設立届を学生課課外活動係に提出して下さい。各届出用紙は学生課にあります。



# 窓外

微生物学講座  
助教授 吉田逸朗

## 春よ、来い。

この「窓外」の窓は「学窓」であろう。今、窓外は雪の世界である。一方、学窓の内側は、改革の嵐が吹く、風の世界と言える。国立大学法人化に始まった本学の一連の改革は、全国レベルで実施された寒冷地手当ての分割支給を含む職員の給与体系の見直しを経て、新年度である平成18年4月からの教員任期制への移行に至った。学内駐車場が、その維持整備のために有料化されたのも、また、本学職員代表を労働者代表として選出したのも、ついこの前のことである。病院の経営や大学の運営には利益が、研究には競争が、教育には効率が求められる、学窓内の変化の風が、やけに強く感じられるのは私だけではなかろう。従って、現実逃避とまではいかなくとも、少しだけ眼を窓外に転じて、束の間、夢の時間を持ちたくもなろうという訳である。

窓外に見える十勝連峰は、助教授に昇任してすぐの十数年前、同僚だったK助教授に誘われて美瑛川水系源流部に入渓したこと（カッコいいでし

よ）を思い出させる。学生時代、岩盤調査のアルバイトで行った日高の山奥の静内川水系で白斑の雨鱒<sup>(註1)</sup>を釣って以来、綺麗な北海道の渓流魚を釣るのは（食べることも含めて）、機会が少ないだけにドキドキするほどの楽しみであったが、近郊の渓流で赤斑の忍路鮎<sup>(註2)</sup>が釣れたことに、また新たな感慨を持った。K助教授とは、氏が教授となって他大学に転出するまで2人で度々ここに出掛け、私はこの川を密かに「助教授の川」と名付けた。忍路鮎だけがコロニーを形成する、彼等の隠れ里である。後年、1人で出掛けたこの渓流で、親子連れのクマさんに会った時の詳細は、いずれまた別の機会に。

十勝連峰に連なる大雪山系の、その中腹を穿つ東大雪トンネルを抜け白滝を過ぎると、湧別川水系の3本の川が集まる丸瀬布がある。ここは、天然者の雨鱒と忍路鮎、天然と放流が混在する山女、そして放流者の虹鱒が入り乱れて生息する水系である。その湧別川の水が流れる先には、目許のパッチリした鱒達が待つオホーツクの海がある。彼等に遇いに行かなければならない。早く雪が融け、水が暖まることを願う。ハールヨ コイ。

(註1) アメマス。標準和名エゾイワナ。塩焼きと骨酒が美味しい。

(註2) オショロコマ。標準和名カラフトイワナ。天麩羅と骨酒が美味しい。